

急性期看護論

単位数（時間数）：2 単位（60 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：准教授・石井真紀子

科目担当者（職位・氏名）：助教・添田咲美、助教・吉岡智大、助教・窓岩由実

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：64

■ 授業概要

生命の危機状態および周術期にある対象と家族を身体面、心理面、社会面から理解するとともに、必要な看護援助の方法を修得できるよう教授する。特に手術が必要な健康障害が日常生活に及ぼす影響と、術前、術中、術後の特徴を理解したうえで、必要な看護について修得できるよう教授する。

■ 到達目標

1. 急性期及び急性期看護という概念を説明できる。
3. 生命の危機的状況にある対象とその家族を身体・心理・社会面からアセスメントできる。
4. 生命の危機的状況にある対象とその家族に必要な看護を説明できる。
5. 周術期及び周術期看護という概念が述べられる。
6. 手術による麻酔侵襲や手術侵襲による生体反応と回復過程が説明できる。
7. 手術によってもたらされる合併症や二次的障害、術式による特徴をふまえ、合併症予防と回復促進のための看護が述べられる。
8. 手術を終え社会復帰を目指す対象と家族の生活を再構築するための看護を説明できる。

■ 教育内容

成人看護学

■ キーワード

成人期、生命の危機状態、急性期、周術期、侵襲、合併症、社会復帰

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	1. 急性期看護総論①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ガイダンス ・ 急性期とは ・ 急性期にある成人と家族の特徴と理解 	石井
2	2. 急性期看護総論②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命の危機的状況に陥りやすい病態（原因疾患）、検査、治療 ・ 生命の危機的状況にある患者と家族の心理反応、概念（危機理論など） ・ 生命の危機を回避し回復を促すための看護 	石井
3	3. 周術期看護総論①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術前の看護 	石井
4	4. 周術期看護総論②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術中の看護 	石井
5	5. 周術期看護総論③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術後の看護 	添田
6			
7	6. 急性の循環機能障害のある成人への看護支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急性心筋梗塞、狭心症の病態（原因疾患）、検査、治療(PCI など)と看護 	窓岩
8	7. 循環機能に障害のある成人の手術と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冠動脈バイパス術を受ける人の看護 	窓岩
9	8. 急性の栄養・代謝機能障害のある成人への看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急性肝炎、急性膵炎、急性胆嚢炎の病態（原因疾患）、検査、治療と看護 	石井
10	9. 外傷・広範囲熱傷によりショック状態にある成人への看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外傷の定義・分類、治療、看護 ・ 止血法 ・ 熱傷の定義・分類、治療、看護 	吉岡
11	10. 上部消化管に障害のある成人の手術と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胃切除術を受ける人の看護 	吉岡
12			吉岡
13	11. 看護過程①：胃切除術を受けた患者の回復を支援する看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例の紹介 【個人ワーク】 ・ 事例の疾患、検査、治療、発達段階の特徴を調べる ・ 情報の整理と分析・解釈 	共同

14	12. 下部消化管に障害のある成人の手術と看護①	・大腸切除術を受ける人の看護	石井
15	13. 下部消化管に障害のある成人の手術と看護②	・人工肛門造設術を受ける人の看護	石井
16	14. 脳神経系に障害のある成人の手術と看護	・血管内手術を受ける人の看護 ・開頭術を受ける人の看護	吉岡
17	15. 看護過程②:胃切除術を受けた患者の回復を支援する看護	【発表:個人】 ・アセスメント 【個人ワーク】 ・関連図(全体像)	共同
18	16. 呼吸機能に障害のある成人の手術と看護	・肺切除術を受ける人の看護	吉岡
19	17. 鏡視下手術を受ける成人の看護	・腹腔鏡下による胆嚢摘出術を受ける患者の看護、他	石井
20	18. 看護過程③:胃切除術を受けた患者の回復を支援する看護	【発表:個人】 ・関連図(全体像) 【個人ワーク】 ・看護目標、看護問題	共同
21	19. 栄養・代謝機能に障害のある成人の手術と看護	・肝切除術を受ける人の看護	石井
22	20. 乳腺に障害のある成人の手術と看護	・乳房切除術を受ける人の看護	石井
23	21. 性・生殖系に障害のある成人の手術と看護	・子宮摘出術を受ける人の看護 ・前立腺摘出術を受ける人の看護 ・経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT)と看護	石井
24	22. 運動器系に障害のある成人の手術と看護	・大腿骨頭置換術を受ける人の看護 ・人工膝関節置換術を受ける人の看護	吉岡
25	23. 看護過程④:胃切除術を受けた患者の回復を支援する看護	【発表:個人】 ・看護目標、看護問題 【個人ワーク】 ・看護計画	共同
26	24. 人工肛門造設患者の排泄の援助	演習 1 ・ストーマ(コロストミー)・ケア	共同

27	25. 一次救命処置(BLS)	演習 2 <ul style="list-style-type: none"> ・ 胸骨圧迫 ・ 自動体外式除細動器 (AED) 	共同
28	26. 開腹術後 1 病日の看護	演習 3 <ul style="list-style-type: none"> ・ 術後 1 日目の清潔の援助(床上での清拭、陰部洗浄、更衣、弾性ストッキングの装着) ・ 離床の実際：安全・安楽に初回離床を促すための観察、アセスメント、援助 	共同
29			共同
30	27. 人工呼吸器療法と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工呼吸器療法が必要な状態と看護 ・ 人工呼吸器療法の基本と看護 ・ NPPV の体験 	ゲスト スピー カー

■ 履修条件

なし。

■ 成績評価方法

15 回終了後に中間試験を実施する（60 分）。

中間試験：40%、期末試験：40%、課題（看護過程、演習の自己学習）：20%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・ 期末試験の成績概要と解説を Google Classroom にアップロード（掲示）する。
- ・ 希望者に対して評価（期末試験）のフィードバックを行う。希望者は試験日から 2 週間以内に事前にアポイントメントを取ったうえで石井の研究室（研究室 8）を訪ねること。
- ・ 看護過程や演習の課題レポートは、コメントを付して返却する。

■ 教科書

- ・ 『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
26 巻 成人看護学 ② 健康危機状況／セルフケアの再獲得
28 巻 成人看護学 ④ 周術期看護

■ 参考書・参考資料等

- ・ 池上徹、高橋則子編（2023）『系統看護学講座—別巻 臨床外科看護総論 第 12 版』医学書院
他はその都度提示

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

講義 1 コマにつき、事前・事後学修として計 90 分程度必要とする。演習は 2 コマにつき事前・事後学修として計 90 分程度必要とする。

■ 担当教員からのメッセージ

疾病治療論 I（内科学）・II（外科学）、成人看護学概論、成人看護援助論、慢性期看護論などで学んだ知識を基に統合し理解を深めて欲しい。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 8、ishii★iwate-uhms.ac.jp、オフィスアワーは特に定めない。事前連絡をしてから訪問のこと。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有 (看護師)

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

ゲストスピーカーは呼吸器疾患看護認定看護師の資格を有し、臨床で専門性の高い看護を実践している。

■ 実務経験を活かした教育内容

実務経験をもとに、急性期・周術期にある患者と家族に対する看護について講義・演習を行う。